

さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

う え だ し ゅ う す け
上 田 周 典 (北海道区水産研究所 さけます生産技術部 技術課)

2018年の北太平洋

漁獲数

2019年に公表されたNPAFC統計データによると、2018年1-12月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は6億5,130万尾で、前年4億6,067万尾の141%でした(図1A)。

魚種別に見ると、カラフトマスが4億6,947万尾で最も多く、全体の72%(前年比156%)を占めています。次いでサケが9,852万尾(構成比15%,前年比124%)、ベニザケが7,380万尾(構成比11%,前年比104%)と続き、これら3魚種で全体の約98%を占めています(図1A)。地域別では、記録的な豊漁であったロシアが4億9,462万尾(前年比240%)と最も多く、次いでアラスカが1億1,611万尾(前年比51%)と両地域で全体の93%以上を占めています。以下、日本3,401万尾、カナダ395

万尾、アラスカ以外の米国(ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州)249万尾、韓国9.5万尾と続き、各国とも前年に比べて増加したものの、分布の南限に近い日本や米国ワシントン州以南の地域では、近年減少傾向にあります(図1B)。

人工ふ化放流数

2018年1-12月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は49億964万尾で、前年50億56万尾の97%でした(図1C)。

魚種別ではサケが29億1,516万尾で約6割を占め、これに次ぐカラフトマス14億3,699万尾と合わせると全体の9割近くを占めます(図1C)。地域別では日本が16億5,954万尾、アラスカ18億3,440万尾、ロシア8億4,230万尾、カナダ2億6,173万尾、アラスカ以外の米国3億1,299万

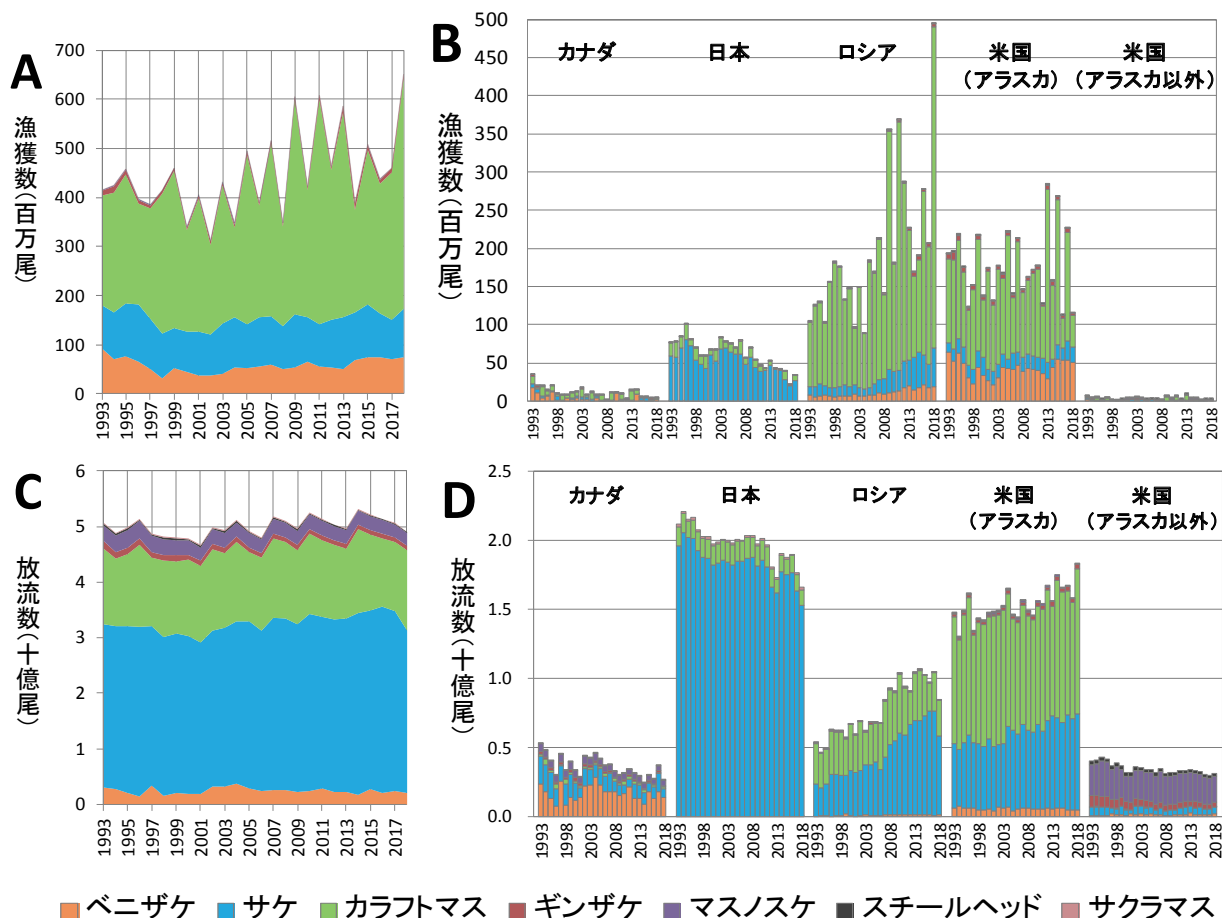


図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数(A)、地域別魚種別の漁獲数(B)、魚種別人工ふ化放流数(C)及び地域別魚種別の人工ふ化放流数(D)

A及びBは「NPAFC Pacific salmonid catch statistics (updated 31 July 2019).」, C及びDは「NPAFC Pacific salmonid hatchery release statistics (updated 31 July 2019)」より作成(参照 2019-12-10)。アラスカ以外の米国はワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともわずかなため図中では省略。

尾, 韓国 1,071 万尾となっています (図 1D)。

2019 年漁期の日本

サケ

2019 年漁期 (2019 年 8 月～2020 年 2 月) の来遊数 (沿岸漁獲と河川捕獲の合計) は 1 月 10 日現在で 1,971 万尾, 前年同期比 66.2% となっており, 近年で最も低い来遊数となり, 引き続き低い水準となっています (図 2)。このうち北海道では 1,756 万尾 (前年同期比 76%), 本州太平洋側では 168 万尾 (前年同期比 28%), 本州日本海側では 47 万尾 (前年同期比 74%) となりました。採卵数は, 1 月 10 日現在で 15 億 5,535 万粒と, 前年同期の 78% となっています。このうち北海道は採卵計画数の 96%, 本州太平洋側では, 採卵計画数の 41%, 本州日本海側では 81% にとどまっています。全国の放流数は計画 (17 億 6,352 万尾) を大きく下回る見込みです。

カラフトマス

カラフトマスは 2 年で回帰するため, 偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。主産地の北海道における来遊数の動向を見ると, 偶数年級の来遊数は 2016 年に増加し, 昨年はやや減少したものの, 683 万尾が回帰しました。しかしながら, 奇数年級は 2007 年以降減少傾向を示しており, 2019 年漁期 (2019 年 7 月～11 月) は 94 万尾 (前年比 14%) と, 1983 年以降で最低の来遊数となりました (図 3)。採卵数は 1 億 2,777 万粒で計画数の 74% となっており, 放流数も計画 (1 億 3,840 万尾) を大きく下回る 1 億尾ほどになると見込まれます。

サクラマス

2019 年漁期の北海道における河川捕獲数は 8,990 尾 (前年度比 68%) となり, 2000 年以降の来遊数平均の 90% 弱となりました。地域別には, えりも以西海区では前年比 158% と増加しましたが, オホーツク海区, 日本海区, 根室海区では前年比を下回りました。採卵数は 677 万粒で, 採卵計画数の 134% となりました。なお, 2019 年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です (図 4)。

ベニザケ

2019 年漁期の北海道 3 河川 (安平川・静内川・釧路川) における河川捕獲数は 2,197 尾で前年比 280% となりました。この捕獲尾数は平成に入って 2 番目に多い数値となりました。3 河川の内訳としては, 安平川の捕獲数が 2,192 尾を占めており, 静内川が 5 尾, 釧路川が 0 尾となっています。釧路川は 2015 年級, 2016 年級の放流が行えておら

ず, 2017 年級から放流が再開されていますので, 今後の河川回帰に期待したいところです。

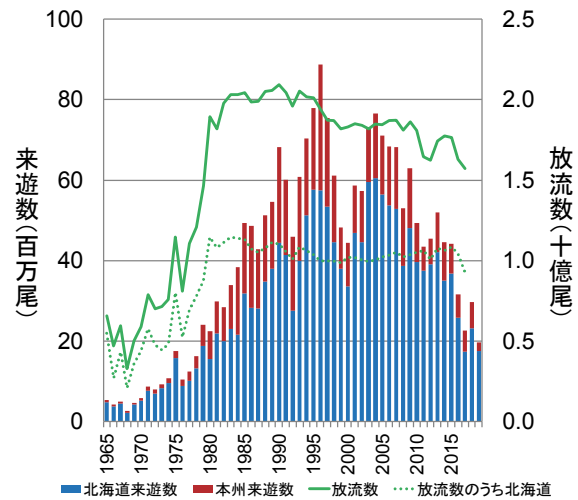


図 2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数 (2019 年漁期来遊数は 1 月 10 日現在)

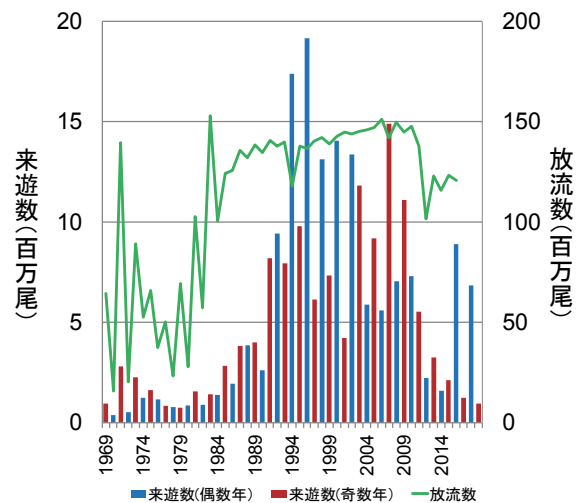


図 3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数

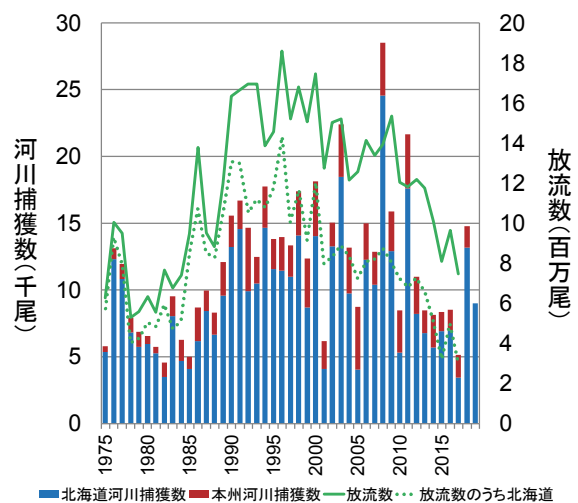


図 4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数 (2019 年漁期の本州河川捕獲数は確認中)